

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2021年12月
第47号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部

お寺の日常／丹羽住職インタビュー
シリーズ浄土宗／お念仏の宗派
実践教室／年末年始の浄土宗の行事
七福神めぐりウォーキング（新年開運七草粥の会）
厄払い節分会法要のご案内
ご案内



住職インタビュー

お寺の日常

二〇二一年も終わりに近づき、振り返ると様々なことがありました。先送りになっていた東京2020オリンピックやパラリンピックがコロナ禍ならではの創意工夫により開催されたことも印象深い年だったのではないのでしょうか？
日常でも、私たちの生活スタイルや考え方など変化が生まれたように感じます。お寺はどうでしょう？ お寺の日常について、変わっていくものと変わらないものをご住職にお話しを伺いました。



十三夜
お月見チャリティー
コンサート (R3.10.15)



● お寺をもっと身近に感じてもらう為に：

近隣小学校の子どもたちが授業の一環として西願寺を訪問しお寺の仕事を知るというテーマで住職にインタビューをしました。

「西願寺（お坊さん）は、普段何をやっているのですか？」

朝夕のお勤めと作務、それから色々な人の相談事になったり、法事を行ったりしています。作務というのは、掃除やお寺の雑務の事です。

「西願寺はいつでも訪れることができますか？」

はい。本堂のお参りはもちろんですが、それ以外にもコンサートや豆まきなどの行事もありますので、気軽に足を運んでください。

「お墓以外に何があるのですか？」

ご本尊である阿弥陀如来が祀られている本堂と、客殿、住職や住職の家族が生活している庫裡、法事やイベントも行える会館があります。

「お寺と神社の違いは何ですか？」

お寺は、仏様をお祀りし仏教の教えを説く僧侶が住むところで、神社は、八百万の神様が住む場所として、神主、宮司、巫女がいて神様にお仕えています。

「西願寺は、初詣で来てもいいのですか？」

はい。ご本尊の阿弥陀さまの前で新しい年を迎えられたことに感謝して一年の誓いを立てに来る方もいらっしゃると思いますよ。

問 子どもたちの素朴な疑問にお答えになつていらつしやいましたが、本来のお寺、住職の仕事や役割というのは何だと思われますか？

住職 元々、お寺というのは地域コミュニティの要のような存在だったのでないでしょうか？ 葬祭や布教の場であるだけではなく、かつて寺子屋と呼ばれたように教育や人々の心の悩みや相談事を聞く福祉の拠点でもあったと思います。現在でも、浄土宗のお寺は念仏の道場であり、また仏教を学び、お釈迦さまの教えの中からより良く生きていくための生き方を学ぶところで、住職の役割はそのサポートをする事だと思つています。

問 時代の流れの中で、私たちとお寺との付き合いも変わってきたように感じます。特に、コロナ禍により法事を控える方も増えたと聞きますが…。

住職 人々が救いを求める場所が宗教しかなかった頃から時代を経て、宗教に関する事件をきっかけに「宗教＝怪しい」と言葉だけが独り歩きしていた時代もありましたが、近年になってか

らは仏教がまた見直されてきたようにも感じます。確かに、家族形態も変わり、また、コロナ禍の影響などで法事をされる方が一時減りましたが、法事をお勤めしようという気持ちが無くなつたわけではないので緊急事態宣言下で法事を見合わせていた方が徐々に法事をされるようになっていきます。

問 時代が変化しても変わらないお寺のスタンスというものがあると思いますが、どのような事と考えますか？

住職 宗教というのは、いつの時代も生きている人々のよりどころとなるべきものではないかと考えます。お寺や住職は、気軽に訪れ話をする事ができる場所で、身近な存在であることが大切だと思います。その為の手段として、お寺でイベントを開催したり、また、私個人としては保護司の活動などを行っています。

問 お寺や住職の仕事とは別に、ご住職のプライベートでの趣味などに何か変化はありましたか？

住職 今はなかなか趣味に没頭できる時間というのは無くて、映画鑑賞が趣

味だったけれども映画館に行く機会も減ってしまったのでね…。あとは、昔PTA会長をつとめていた時に会を作つて活動していた和太鼓を幼稚園の子どもたちに教えたりするのも楽しみの一つですね。

問 最後に、「さんが」読者の皆様に一言お願いします。

住職 皆さまには、この一年を振り返り無事過ごせた事への感謝の気持ちと共に新年を迎え新たな誓をたてるなど清々しい気持ちで年末年始を迎えて頂きたいと思います。

問 年明けには、恒例の七草粥や節分会も楽しみですね。本日はありがとうございました。新年も宜しく願ひ致します。



お念仏の宗派



「南無阿弥陀仏」のお念仏、「南無」は元来インドの言葉で敬意、尊敬、崇敬などの意味を表す「ナモ／namo」を音写したものです。そこから転じて帰依を表明する意味に用いられ「私は帰依します」と解釈されます。

浄土宗では、念仏を称えることが教えを理解し、その心を知る基本。法然上人の著した「選択本願念仏集」の冒頭では、「南無阿弥陀仏往生之業念仏為先」（極楽往生するためには、なによりもまず念仏が大切である）と示しています。毎日のおつとめでも、法要のときなどでも、念仏は重要な役割を果たしています。



日課念仏

念仏の基本となるのは、毎日最低何回の念仏を称えようと決めて実行する日課念仏にあると言われます。

日課念仏として日常生活の中で念仏を称えるときには、難しい決まりごとはなく、食事の前や仕事、いつでもどんなときでも念仏を称えればよいのです。

別時念仏

日常の中で行う日課念仏に対して、日時を定めて、身体や心を清浄にして念仏行に励む意識をもって念仏を称え心を淨める行動として別時念仏があります。毎月決まった日に別時念仏会を開いているお寺もあります。

※西願寺では、毎月二十五日に（参加ご希望の方は、西願寺までお問合せください）。

法事の時の念仏

おつとめの中の念仏の唱え方には、三唱礼、十念、念仏一会などがあります。

三唱礼は、独特のリズムをつけて三遍の念仏を三回繰り返します。

十念は、念仏を十回称えるもので、一息で「ナムアマミダブ、ナムアマミダブ」と四回称え一息いれてまた四回、九回目には「ナムアマミダブツ」と発音し、最後にゆつくりと「ナムアマミダブ」と称えます。法要の席などで導師が「同唱十念」と言われたら参列者一同合掌し、声をそろえて称えます。

念仏一会

念仏の回数を数えずに、自分の心ゆくまでひたすら何回でも「ナムアマミダブ」と称え続け最後にゆつくりと念仏を称えて終わります。

年末年始 お寺の行事

仏名会（ぶつみょうえ）

歳末にあたり今年一年に、身・口・意の三業より犯してしまった様々な罪を浄めるため、改めてお念仏を称え礼拝する法要です。罪深い自分自身を反省し、清らかな身をもって新年を迎えるという意味もあります。

除夜

除夜には、旧年を押しのけて新年を迎える夜とも考えられ、一年の反省と無事に過ごせたことへの感謝の意味があります。大本山増上寺では、元旦の午前0時、御法主台下の撞かれる一番鐘より順に一〇八つの鐘を鳴らして心身清浄をお祈りします。

修正会（しゅしやうえ） 一月二日

新しい年を迎え、天下泰平や人々の幸運を祈って行う法要です。宗派を問わずおこなわれ、浄土宗では、「天下和順」ではじまる『無量寿経』の一節が読まれます。

正五九黒本尊祈願会

（じようごくろほんぞんきがんえ）

増上寺

正月、5月、9月（正五九）の十五日、大本山増上寺 安国殿にご安置されている「秘仏 黒本尊阿弥陀如来」がご開帳され、御祈願の法要が営まれます。

「黒本尊阿弥陀如来」は、かの徳川家康公の念持仏であり、家康公出陣の際は、戦勝を祈願し共に戦場に赴いたと伝えられています。以来、勝運の仏さまとして、現在に至るまで多くの人々の信仰を集めています。

御忌会（ぎきえ） 一月二十五日

建暦二年（1212年）、一月二十五日に八〇歳で往生された、浄土宗の宗祖法然上人のご遺徳を偲び、ご遺訓の『一枚起請文』を拝読し営まれる法要です。



暮らしの中の 仏教語

「しゃかりき」

何かをがむしゃらに頑張っている様を「しゃかりきになって～」と言ったりしますが、この「しゃかりき」の言葉は釈迦力と書く。文字通りお釈迦さまの力のことです。仏教におけるお釈迦さまの力は絶大で、こうした力をもって衆生を救うため脇目もふらず頑張ります。これに例えて「しゃかりき（釈迦力）になって～する」というようになったのだとか。さて、しゃかりきに勉強した成果がでるのは…やっぱり自分の頑張り次第？



遊馬・柳島 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会)のご案内

日 時 令和4年1月7日(金)
※10:00～12:00の時間内で
巡っていただきます。

参加費 100円 (※保険料として)

新年開運七草粥の会
は、楽しくウォーキング
を行いコース内七か所の
寺社寺院を巡り御朱印を
頂く会です。ゴールの西
願寺で七草粥が振舞わ
れ、参加者の方に記念品が手渡されます。お
気軽にご参加ください。



厄払い節分会法要 (豆まき)のご案内

日時 令和4年2月3日(木)

10:00 受付
10:30 節分会法要
11:30 豆まき (予定)

令和4年度に前厄・
本厄・後厄にあたる
善男善女の方は是非
お申込みください。



冥加料 10,000円 (祈祷料/会食)

※尚、豆まきのみのご参加は、浄財と
してお賽銭(灯明料)をお願いいた
します。

●2022年厄年早見表●

【男性】

前 厄	本 厄	後 厄
1999年(平成11年)生 24歳/卯	1988年(平成10年)生 25歳/寅	1997年(平成9年)生 26歳/丑
1982年(昭和57年)生 41歳/戌	【大厄】 1981年(昭和56年)生 42歳/酉	1980年(昭和55年)生 43歳/申
1963年(昭和38年)生 60歳/卯	1962年(昭和37年)生 61歳/寅	1961年(昭和36年)生 62歳/丑

【女性】

前 厄	本 厄	後 厄
2005年(平成17年)生 18歳/酉	2004年(平成16年)生 19歳/申	2003年(平成15年)生 20歳/未
1991年(平成3年)生 32歳/未	【大厄】 1990年(平成2年)生 33歳/午	1989年 (昭和64/平成元年)生 34歳/巳
1987年(昭和62年)生 36歳/卯	1986年(昭和61年)生 37歳/寅	1985年(昭和60年)生 38歳/丑
1963年(昭和38年)生 60歳/卯	1962年(昭和37年)生 61歳/寅	1961年(昭和36年)生 62歳/丑



参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

掲 示 板

彩の都メモリアルパーク管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

令和3年12月29日(水)～

令和4年1月5日(水)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。

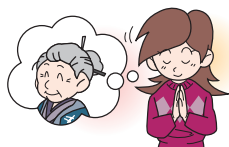


彩の都メモリアルパーク管理事務所
TEL.048-921-4194 FAX.048-921-4195

令和4年 年回表

年毎の命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行く法要が年回(年忌)法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めをします。

1周忌	令和3年逝去	37回忌	昭和61年逝去
3回忌	令和2年逝去	50回忌	昭和48年逝去
7回忌	平成28年逝去	100回忌	大正12年逝去
13回忌	平成22年逝去		
17回忌	平成18年逝去		
23回忌	平成12年逝去		
27回忌	平成8年逝去		
33回忌	平成2年逝去		



西願寺 令和4年 年間行事案内

- ◎毎月25日 18時～別時念佛会
- ※1月1日(土) 修正会(新年をむかえての法要=お勤め)
- ◎1月7日(金) 開運七草粥の会・七福神めぐり
- ※1月25日(火) 法然上人御忌
- ◎2月3日(木) 節分会(豆まき厄払い)
- ※2月15日(火) 涅槃会(お釈迦さまの命日)
- ◎3月18日(金) 春の彼岸会
- ～24日(木)
- ※4月8日(金) 灌仏会(花まつり)
- ◎5月25日(水) 大施餓鬼会
- ◎7月13日(水) お盆会
- ～15日(金)
- ◎8月7日(日) 合同新盆供養
- ◎8月13日(土) 旧盆会(13日合同盂蘭盆法要)
- ～15日(月)
- ◎9月20日(火) 秋の彼岸会
- ～26日(月)
- ◎10月7日(金) 十三夜お月見コンサート
- ※11月23日(水) 十夜会(念仏をとなくて善根をつむ法要=おつとめ)
- ※12月8日(木) 成道会(お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(日) 仏名会(念仏をとなくて一年を反省する法要=おつとめ)



◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。

※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要=おつとめです。

■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

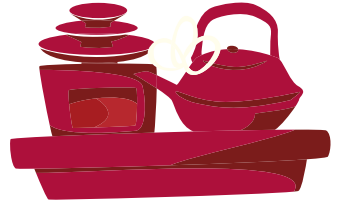
西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部

東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二

FAX 03 (32695) 1362 Mail: info@io-conet

■次号予告

次号は令和四年二月発行予定の「春号」です。



◆編集後記◆

「今年も余すところあと〇日。あつという間の一年でしたね。」毎年判で押したように言ってしまうセリフですが、令和三年を振り返ると昨年に引き続きコロナウィルスに振り回されつつも世の中は前進し続けているなあと実感させられることも多々ありました。私も、反省を生かしつつ何でも前向きに取り組まねば!と誓いを新たに新年を迎えたいと思います。

さて、新年号では3頁に年末年始のお寺の行事として、芝の増上寺の正五九黒本尊祈願会について掲載しています。一年に3回しか開帳されない徳川家康公ゆかりの「秘仏 黒本尊阿弥陀如来」。実は、私もまだ一度も参拝したことがないのですが、物事が勝れた方へと進めて下さる「勝運」の仏さまだそう興味津々です。

新年が皆さまにとつてより良い年でありますように。2022年もどうぞ宜しくお願い致します。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部